

令和6年度朝来市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全水田面積が約1,500haで、主食用米作付面積が約900haとなっている。主食用米作付農家数が約1,366農家であり、1農家当たりの作付面積は、約57aと小規模で兼業農家が多数を占める。そのため、主食用米主体の農家が多く、転作作物の面積拡大が進んでいない。

農家においては高齢化が進んでおり、朝来市の振興作物である岩津ねぎ・黒大豆の栽培農家については、半数以上が70歳以上という状況にあり、作付けされていない市内の農地もある。

このような現状の中、市では朝来市移住定住促進プロジェクトの1つである新規就農希望者への支援制度を創設し、27名の新規就農希望者が将来の農業経営を視野に入れた研修を行っている。市として担い手の確保に努めるほか、認定農業者を現状の35名から50名に引き上げるよう取り組んでいる。

また、市の農業の方針となる「朝来市農業推進戦略プラン2019」が完成しており、今後は市の方針とリンクした産地交付金の活用を検討するとともに、転作作物への助成を強化、支援することで収益力の高い作物や高付加価値の作物への転換を促し、農業者の経営

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

の安定・所得向上につなげていく。

朝来市の振興作物である、岩津ねぎ、黒大豆、ピーマン、朝倉山椒は市場から高い評価を受けており、収益を上げられる作物である。しかし、生産面積が年々減少しているため、需要に対応できていない状態である。需要に対応するため、支援を強化し作付面積拡大を推進する。

また収益力の強化に向けて、農地の集積、機械化による農作業の効率化などに取り組み、生産性の改善を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

現在、市内の主食用米については、需要がある状態となっている。しかし、今後確実に主食用米の需要が減少していく中で、畑作物への転換が必要となっている。水田から、畑地への転換を図るとともに、今後も畑作物が作付けされると予想される土地については畑地化の支援を活用し畑地化を推進する。今年度以降、水稻作に活用される見込みがない農地については作付体系を水田台帳等を活用し定期的に点検し、畑地化支援を含め検討していく。また、畑地化を進めるとともに連作障害を回避するためにも、水稻とのブロックローテーションを推進する。

4 作物ごとの取組方針等

市内の約1,500ha（不作付地含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

主食用米については、コウノトリ育む農法など環境に配慮した米を推奨し、より付加価値の高い米の生産を推進する。

(2) 備蓄米

現在、取り組んでいないが、需要動向に応じて推進を図る。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

地域の畜産農家への支援や農地の維持を図るため、飼料用米の生産拡大に努める。

イ 米粉用米

食品事業者との連携を図りながら需要がある米粉用米の作付を目指す。

ウ 新市場開拓用米

米の輸出に向けた動きは本市においても見られ、輸出に向けた米の作付について生産拡大を目指す。

エ WCS 用稲

市内及び近隣地域の畜産農家との連携を強化し、農地の維持を図るため、集落毎でまとまった WCS 用稲の生産拡大を目指す。

オ 加工用米

地元の実需者（ＪＡ等）との連携を強化し、農地の維持を図るため、加工用米の生産拡大を目指す。また農・商の連携の中で、加工用米の需要拡大を目指す。

(4) 麦、大豆、飼料作物

大豆については、市の振興作物である黒大豆生産の団地化に取り組むなど維持・拡大を目指す。飼料作物については、畜産農家の需要を把握しながら維持・拡大を目指す。

(5) そば、なたね

６次産業の取組を推進し、地域の需要者の開拓により作付を目指す。

(6) 地力増進作物

地力増進作物による土づくりを推進する。

(7) 高収益作物

市の振興作物である「岩津ねぎ」、「ピーマン」、「黒大豆」、「朝倉山椒」を地域振興品目として、維持・拡大を目指す。

(8) 畑地化

水田を畑地化して高収益作物や畑作物の本作化に取り組む農業者に対して、畑地利用への円滑な移行を促し、畑作物の需要に応じた生産を促進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	889	0	887	0	880	0
備蓄米	0	0	0	0	0	0
飼料用米	3	0	3	0	3	0
米粉用米	0	0	0	0	0	0
新市場開拓用米	1.5	0	1.5	0	10	0
WCS用稲	24	0	25	0	25	0
加工用米	26.6	0	27	0	35	0
麦	4.2	3.2	4	3.2	5	5
大豆	1	0.3	2.6	0.1	3	1
飼料作物	2.3	0	2.3	0	4	0
・子実用とうもろこし	0	0	0	0	0	0
そば	4.3	0	2.9	0	10	0
なたね	0	0	0	0	0	0
地力増進作物	1	0	1.1	0	1	0
高収益作物	156.9	0	161.8	0	181	0
・野菜	123.7	0	126.6	0	135	0
・花き・花木	2	0	2	0	5	0
・果樹	7.7	0	7.2	0	6	0
・その他の高収益作物	23.5	0	26	0	35	0
その他	0.01	0	0.01	0	0.01	0
こんにゃく	0.01	0	0.01	0	0.01	0
畑地化	0	0	7.9	0	7.9	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
				（５年度）	（８年度）
1	岩津ねぎ	振興作物助成	生産面積の拡大	27ha	30ha
2	ピーマン	振興作物助成	生産面積の拡大	0.8ha	2ha
3	ピーマン	基準収量出荷加算助成	生産面積の拡大	0.8ha	1ha
4	黒大豆	団地化加算	生産面積の拡大	7ha	15ha
5	黒大豆	基準収量出荷加算助成	生産面積の拡大	2ha	14ha
6	朝倉山椒	振興作物助成	生産面積の拡大	0.6ha	2ha
7	野菜・花き・果樹・その他 一般作物	振興作物助成	生産面積の拡大	20ha	24ha
8	加工用米・黒大豆・野菜	担い手加算	生産面積の拡大	44ha	45ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は３年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:

協議会名: 朝来市農業再生協議会

整理 番号	使途 ※1	作 期 等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	振興作物助成	1	26,000	岩津ねぎ	販売証明の提出が必要
2	振興作物助成	1	26,000	ピーマン	販売証明の提出が必要
3	基準収量出荷加算助成	1	16,000	ピーマン	1本あたり4.5kg以上出荷すること
4	団地化加算	1	11,000	黒大豆	黒大豆を1団地1ha以上団地化して作付し販売
5	基準収量出荷加算助成	1	11,000	黒大豆	10aあたり91kg以上出荷すること
6	振興作物助成	1	11,000	朝倉山椒	植栽から3年間(同一圃場への植え直しは不可)とする 1aに6本以上植栽すること
7	振興作物助成	1	6,000	野菜・花き・果樹・その他一般作物	販売証明の提出が必要
8	担い手加算	1	11,000	加工用米・黒大豆・野菜	認定農業者及び認定新規就農者が対象

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

対象作物一覧表

区分	作物等名	作物コード	整理番号				
麦	小麦	100					
	小麦（種子用）	101					
	六条大麦	102					
	二条大麦	104					
	はだか麦	106					
	大豆	青大豆	109				
		白大豆（一般）	122				
		白大豆（契約）	123				
		白大豆（種子用）	112				
		黒大豆	110	4	5	8	
雑穀	黒大豆（種子用）	111					
	青刈りとうもろこし	124					
	ソルガム（青刈りソルガム、スーダングラス）	125					
	わら専用稲	113					
	その他青刈り（テオシント、青刈り麦、青刈り大豆、しこくびえ、青刈りひえ）	126					
	飼料作物	永年性牧草（オーチャードグラス、チモシー、トールフェスク、メードフェスク、パヒアグラス、アルファルファ、ケンタッキーブルーグラス、アカローパー、シロクローパー、ペレニアルライグラス、リードカナリーグラス、飼料用シバ）	127				
		イタリアンライグラス	128				
		その他一年性牧草（ギニアグラス、カロードギニアグラス、ローズグラス、パラグラス、バンゴラグラス、ネピアグラス、オオクサキビ）	129				
		飼料用樹豆類（飼料用かぶ、飼料用ビート）	130				
		飼料用穀類（子実用えん麦）	131				
青刈りハトムギ（飼料用）		132					
子実用はと麦		121					
その他飼料作物		133					
その他飼料作物（資源循環非対象）		134					
飼料用青刈り稲		157					
新規需要米	稲発酵粗飼料用稲（専用種）クサノホシ、クサユタカ、クサホナミ、リーフスター、はまさり、ホシアオバ、タカナリ、兵衛飼78号（兵庫牛若丸）、夢あおば	135					
	稲発酵粗飼料用稲（その他）	136					
	飼料用米	116					
	米粉用米	115					
	加工用米	119	8	9			
	そば	117					
	なたね	118					
	その他の野菜	きゅうり	200	7	8		
		トマト	201	7	8		
		なす	202	7	8		
大市なす		285	7	8			
ピーマン		203	2	8	3		
ししとう		288	7	8			
トウガラシ		293	7	8			
ズッキーニ		289	7	8			
かぼちゃ		204	7	8			
くり南瓜		282	7	8			
その他の果樹	いちご	205	7	8			
	ずいか	206	7	8			
	メロン	207	7	8			
	キャベツ	208	7	8			
	キャベツ（裏作転作）	209					
	はくさい	248	7	8			
	はくさい（裏作転作）	210					
	さんとうさい	292	7	8			
	ほうれんそう	211	7	8			
	オクラ	262	7	8			
ハス	268	7	8				